

## 伝統のステンドグラス、小・中学校の架け橋になる



<二宮小学校の廊下に飾られたステンドグラス>

10月の二宮中学校の夕鳴祭、二宮西中学校の秋麗祭で展示したステンドグラス。各クラスでテーマを設定し、下絵が描かれた黒いラシャ紙をカッターで切り抜き、和紙（以前は色付きビニール袋やカラーセロファン）を貼り、窓ガラスを飾る「ステンドグラス風」に仕上げています。二宮中学校で25年以上も前からクラス単位で作られ始められ、その後両中学校で手法やサイズを変えながら毎年受け継がれて今日に至っています。

今年度はにのみや学園として、二宮中学校では小中交流会の中で小学生がその制作風景を見学する機会や、当日の夕鳴祭に招待して実際に飾られている様子を見学する機会を設けました。さらに11月から1月にかけて、二宮中学校の作品は二宮小学校、二宮西中学校の作品は山西小学校で飾られ、そして両校の作品は2月に一色小学校での「一色スマイルアート展」に出展される予定になっています。



小学校では、2年生の図画工作の授業でカッターナイフの特性や正しく安全に使う方法を学びます。<ステンドグラスの制作風景>カッターナイフを巧みに使って完成した中学生の作品に間近に触れることで、子どもたちが小・中学校の学びのつながりを意識できればという願いから、このような企画が実現しました。また完成した作品だけではなく、中学生がクラス一丸となって制作に取り組む様子を参観する機会を設けられたことも、小学生にとってはこれから先につながる中学校生活への展望となり、中学生にとっても自分たちの取組に誇りを感じることができるといえる有意義な時間になったことと思います。

## 小学校での道徳の授業に学ぶ ～小中一貫カリキュラムワーキンググループの取組～



<7月：教員同士による模擬授業の様子>

にのみや学園では、学園内の小・中学校のすべての教員が14の教科・領域等に別れて9年間を見通したカリキュラム研究に取り組んでいます。既習の学習事項を踏まえ、先を見通した指導の充実を図るための協働的な研究活動を通して、異校種間の相互理解も深まります。今回は道徳部会の取組をご紹介します。部員は小学校4名、中学校3名です。

☆研究テーマ☆「『自分の心身に向き合い他者を尊重し、協働できる子ども』を育てる」

☆具体的な取組☆①児童・生徒同士の対話があり、他者理解につながるような授業づくり

②授業の始めと終わりで自分の変容に気づけるような授業づくり

7月27日には二宮中学校の教室に部員が集まり、教師役・児童役となって「相手の本当の思いに寄り添う思慮深さ」（親切、思いやり）を主題として教材「心と心のあく手」を用いて模擬授業を行いました。児童の意見に対してどのように問い返せば深い学びにつながるのかを柱に据え、児童役の部員が自分の意見や考えを「もっと言いたい!」となる模擬授業でした。その後は、グループリーダーにより、一人の人間として教材を読むこと、



<1月：山西小学校5年生の授業公開での板書>内容項目について理解を深めること、子どもの無限の可能性を信じること、授業のねらいを具体的に考えること等、大切な「道徳授業の基本」が確認され、小・中学校のそれぞれの実態をふまえながら活発な意見交換がなされました。

そして迎えた1月16日。山西小学校で部員が5年生の授業を参観しました。7月の模擬授業と同じ主題と教材です。おばあさんに手を貸す少年と陰で見守る少年2枚の絵を見比べて「親切とは？」を児童は考えます。自分の意見を言いたくてたまらない児童たちが次から次へと挙手をして発表します。担任は問い返し続け、主題に迫ります。この児童のことが光り輝く授業は、日頃からの学級経営の充実と「道徳授業の基本」を貫き通した授業実践の積み重ねであると実感しました。

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

